

出題分析		
試験時間 80 分	配点 100 点	大問数 4 題 ※文学部以外は大問一・二・三が必答問題 ※文学部は大問二・四が選択問題
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】 〈現代文〉 問題文の分量は例年どおり。2024 年度と比較すると、空欄補充問題がやや平易であった。 〈古文〉 問題文の分量・難易度ともに例年どおり。人物関係の把握にやや苦勞した受験生もいたかもしれない。 〈漢文〉 問題文の分量・難易度ともに例年どおりの出題であった。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 森村泰昌 『生き延びるために 芸術は必要か』 ○行数 : 87 行 <input checked="" type="checkbox"/>	「商品」と「作品」のあり方を比較し、芸術作品との向きあい方について述べた文章。問 9 の内容説明問題の選択肢 5 は「感じなければ」が不適當。問 10 の内容合致問題の選択肢 5 は「理解しようとする」が不適當。 ※ (昨年度) 評論、89 行、10 問 (10)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	現代文 (評論) 朝倉友海 『ことばと世界が 変わる時』 ○行数 : 65 行 <input checked="" type="checkbox"/>	自己と非自己の成立や自己意識の特殊性について論じた文章。問 2 の空欄補充問題は、直後の一文を踏まえる。問 4 の内容説明問題は「知る私を知ること」ができる場合を選ぶ点に注意する。問 5 の内容合致問題の選択肢 1 は「外界に存在する他者」が不適當。 ※ (昨年度) 評論、86 行、5 問 (5)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
三	古文 (平安・作り物語) 作者未詳 『堤中納言物語』 ○行数 : 31 行 ○和歌 2 首を含む	小舎人童と女童が、それぞれの主人について語る会話と、その翌年の出来事を記した文章。問 3 の内容説明問題の選択肢 1 は「身分柄……心配する」が不適當。問 6 の理由説明問題は、傍線部直前を踏まえる。問 8 の内容合致問題の選択肢 4 は「現代風で失礼」が不適當。 ※ (昨年度) 平安・日記、27 行、8 問 (12)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

設問別講評			
四	漢文 (清・志怪小説) 張潮 『虞初新志』 ○行数：13行	陳恭隱に付き従った犬と、その五匹の仔犬に関する文章。問1の語句問題は標準。①は「是以」と混同しないこと。問2の空欄補充問題は「若」が比喩を表し、体言に接続することに注意する。問3の書き下しは、文脈から主語と述語を正確にとらえる必要がある。問4の内容合致問題の選択肢1は「一緒に休んで」が誤り。 ※ (昨年度) 南宋・詩話、11行、4問 (5)	標準 <問題文> 標準 <設問> 標準

※「行数」は問題文の行数。立命館大学の問題文は、現代文・古文は通常57字/行(20行/頁)。漢文は20字/行(10行/頁)。なお、昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その他
一	11問 (11)	8	3	2>2	3>1	1	1	3				1	
二	5問 (5)	5			2	1	1	1					
三	8問 (12)	10	2		2	2	1	4		2>2		1	
四	4問 (5)	3	2				1	1			1	2>2	

※「枝問総数」は、各設問(小問)に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問(小問・枝問)の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した(ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える)。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法

〈現代文〉

設問数自体は多くはないが、現代文を二題解答しなくてはならないので、ある程度の速読も意識した読解練習をしておくとういだろう。

〈古文〉

記述問題も一定数出題されるので、多義語の訳出など、記述方法の基本を押さえておこう。

〈漢文〉

共通テストレベルの文章を、語句の読み方や句法に注目して読解しよう。日頃から知識の習熟を怠らないこと。